



東京都の 小中学校 図書館専任教員を配置

東京都教育委員会では、2月15日、都内の全公立小・中学校に学校図書館専任教員を配置する計画を発表した。これは、同教委が設けている教職員の嘱託員制度を活用したもので、退職した教員を図書館専任の教員として再雇用しようとするものである。雇用に際しては、司書教諭等の資格をもつ教員、または現役時に図書主任の経験を有する教員が対象とされてい

る。

都教委では、都内約2,000校の小・中学校に平成8年度から5カ年計画で図書館専任教員を配置する方針で、来7年度に制度化、8年度から実施する。

東京都では高等学校に司書教諭や学校司書が配置されているものの、小・中学校には司書教諭や学校司書が配置されていないのが現状である。こうした中で有資格者

ネットワーク

や図書館経験者が専任で配置されることの意味は大きい。

文部省による学校図書館充実施策で、蔵書数の増加や面積の拡大など学校図書館はかつてない動きを示しているが、残念ながら「ひと」の問題がとり残されている。今回の東京都の計画は、この「ひと」の問題に取り組もうとするものでおおいに注目される。全国SLAでも同計画を重視し、東京都SLAとともに配置等について働きかける方針である。

**兵庫県SLAを激励
するため見舞金募る**

全国SLAでは2月18日、各県組織へ「阪神大震災に伴う兵庫県SLAに対するお見舞いについて」の文書を発送した。これは2月2日に開催した各県SLA事務局長会議の席上で賛同をえて、募金をつることにしたものである。

同事務局長会議には、兵庫県SLAの田中勝事務局長が出席。被災状況の報告とともに、「地震のショックで肉親や担任の顔を忘れた子どもがいる。今後は子どもの“こころ”的回復が大きな課題となるのではないか」と語り、参加者に衝撃を与えた。

読まれてま~す！

群馬県桐生市立南小学校

人気の本はご多分にもれず、ピーターラビット、学校の怪談、ムーミンにずっこけ、こまったさん。本棚はいつもカラッポなので奥には主人公の絵や本の題名を描いて貼っています。本を返す場所を知らせると同時に、人気の本のアピールにもなりました。

現在、お母さんによる本の紹介も

しています。伝記やノンフィクションも、ここでの紹介がよいきっかけになり、今、「難民少女ランちゃん」がよく読まれています。主人公ランちゃんはベトナムから難民として桐生市に来て、言葉も何もわからないまま生活をはじめ、明るく努力する様子や苦難を乗り越えて、医者になったことなど、同じ年ごろ、同じ土地ということもあって身近に感じて読んでいるようです。（江原佳子）

ネットワーク

被災地域ではすでに授業を再開した学校もあるが、学校や図書館整備にはまだ困難が続くものと考えられる。今回の募金は同じ学校図書館の仲間として、各組織ができる範囲内で兵庫県SLAに対しても見舞いと激励の意を表そうとするものである。

出版関係者が被災地へ本を贈る運動

被災地に本を寄贈する計画が進められている。同計画に乗り出したのは日本児童図書出版協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会、大阪児童文学館で、兵庫県の幼稚園や小・中学校に本を贈ろうとするもの。寄贈計画等について全国SLAに協力要請が届

ネットワーク

いており、全国SLAとしても全面的にバックアップ。現地との打ち合わせのため近く笠原良郎事務局長が訪問の予定である。

本会実施の読書

調査が高校入試に

入学試験たけなわー。最近入試も少し変わり、時局の問題がとりあげられるようになった。阪神大震災もそのひとつ。くわえて全国SLAが実施した読書に関する調査の結果が埼玉県の高校入試(国語)で取りあげられた。内容は帰宅後の子どもの生活に関するもので、小・中・高校生の実態を示し、それについて220字程度で意見を述べよというもの。丸暗記主義では対応できない問題で興味深い。

学校図書館地区大会ご案内

▽第31回北海道大会=10月12日(木)

～13日(金)；小樽市

▽第27回東北地区大会=10月12日

(木)～13日(金)；山形市

▽第23回関東地区大会=11月9日

(木)～10日(金)；厚木市

▽第38回北信越地区大会=9月28

日(木)～29日(金)；新潟市

▽第27回東海地区大会=8月9日

(木)～10日(木)；浜松市

▽第34回近畿地区大会=10月26日

(木)～27日(金)；敦賀市

▽中国地区大会=10月20日(金)～21

日(土)；鳥取市

▽四国地区大会=11月9日(木)～10

日(金)；丸亀市

▽九州地区大会=8月7日(月)～8

日(火)；北九州市

▷卒業生に心をこめて▷

▷貸出しカードを贈る▷

卒業シーズンを前にして、私たち図書館スタッフも恒例行事にとりかかる。3年生の未返却本の督促と、卒業記念カードの作成である。前者は憂鬱以外の何物でもないが、後者は作業をしながらいろいろなことが思い出されて時を忘れる。

「巣立ちの日にあなたの在校中の読書の記録を心をこめて贈ります」と印刷された封筒に1枚1枚名前を入れる。ゴム印で押してもよいのだが、私は手書きにこだわる。カードは今年から黒田三郎の詩「紙風船」といわさきちひろの絵のものを選んでみた。学年カラーの個人カードを封筒に入れながら、ひとりひとりを思い浮かべる。シドニー・シェルダンばかりが書名欄に並んでいるK君、図書委員長でカウンターをよく手伝ってくれたH君、カード8枚を大クリップでとめて封筒がはち切れそうなSさん、吉本ばんなの大ファンだったOさん。みんな卒業おめでとう。卒業後も、いつも本が身近にありますように。(二)

